

第3章

まちの将来像

1 まちの将来像・目指すべきまちの姿

(1)まちの将来像

脱炭素社会へ向けた世界的な動きや新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの社会情勢の変化、市街地の更新により地区の骨格が整ってきたこと、本地区の魅力や課題、上位計画等を踏まえ、今後のまちづくりを計画的に誘導していくため、まちの将来像を以下に示します。

主な魅力・特性

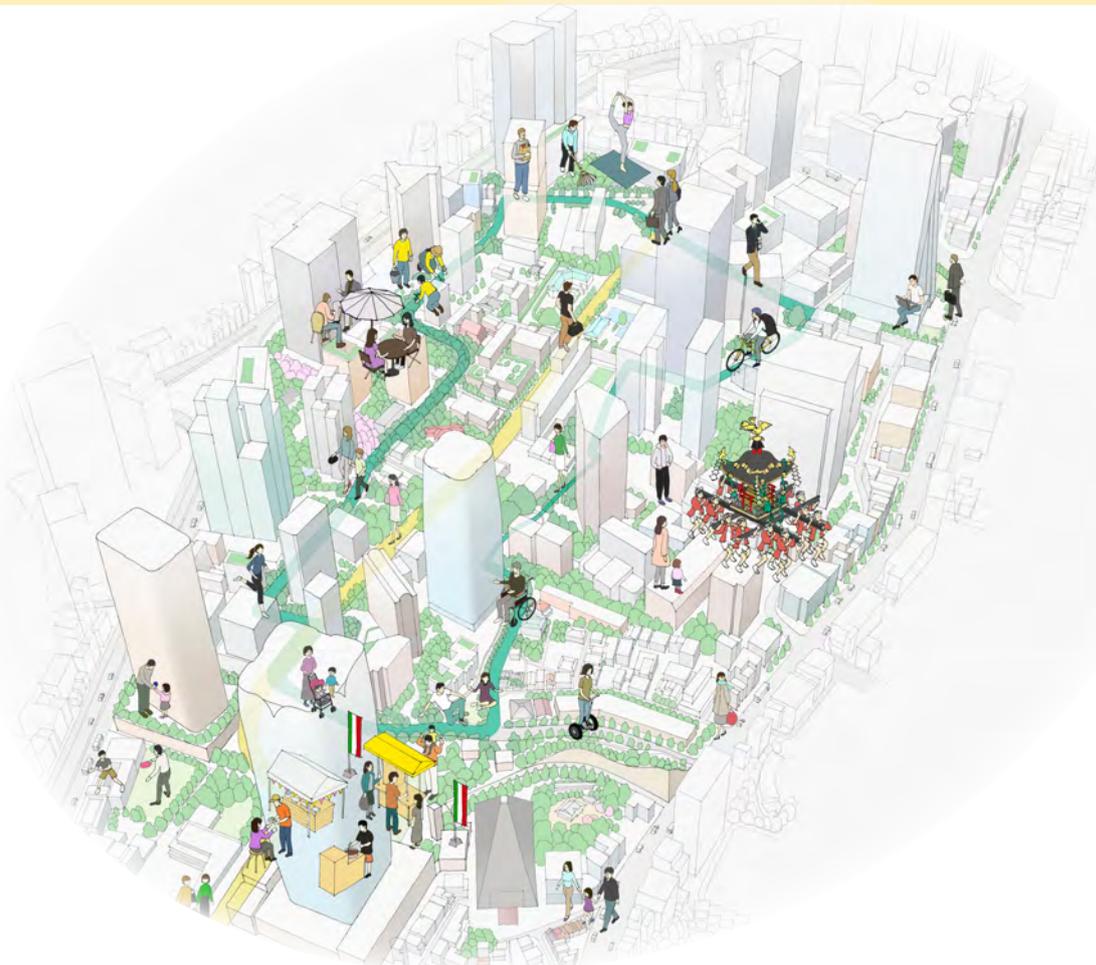
- 地区内の人口の増加、国際水準の都市機能の充実、外資系企業の集積と外国人従業者の増加
- 開発により道路の整備が進んでいる、広域交通ネットワーク（地下鉄・BRT等）が充実している、緑豊かな広場・歩行空間がある。
- 起伏のある地形
- 住民のイベントへの関心・期待が高いなど

主な課題

- 生活利便施設の不足、歩行空間が十分でない箇所がある、バリアフリーのネットワークが不十分
- 脱炭素社会やウィズコロナ・ポストコロナにおけるまちづくりの必要性
- 災害時の更なる連携体制の強化が必要、地域コミュニティが希薄、エリアイメージが弱いなど

まちの将来像

『 すべての人にやさしく、活力と魅力に満ちた、
誰もが歩きたくなる緑豊かな国際生活交流都市 』



(2) 目指すべきまちの姿

まちの将来像は以下の3つの目指すべきまちの姿で構成されます。

まちの将来像

『 **すべての人にやさしく、活力と魅力に満ちた、
誰もが歩きたくなる緑豊かな国際生活交流都市** 』

目指すべきまちの姿

温室効果ガスの排出実質
ゼロの達成に向けた人に
やさしい緑あふれるまち

歴史と未来が融合する魅力と
活力にあふれた清々しい
国際生活交流都市

多様な主体の地域連携の
強化により、持続的に
発展していくまち

— ポイント —
脱炭素社会に向けた
歩行者中心のウォークラブルな
まちの形成

- ・ 区内の温室効果ガスの排出実質ゼロに向けた自動車交通から多様な交通モード（先端技術を活用した次世代モビリティ、自転車シェアリングなど）への転換
- ・ ウォークラブルなまちの実現に向けた歩行者回遊軸の設定
- ・ 緑の軸の強化



低炭素な交通システムのイメージ
(国土交通省「2040、道路の景色が変わる」)



— ポイント —
ウィズコロナ・ポストコロナ
における風格ある複合市街地
としてのさらなる魅力の向上

- ・ ウィズコロナやポストコロナにおける活発な交流を支えるまちの清潔感やレジリエンスの向上
- ・ 魅力的な国際ビジネス交流拠点の形成に資する業務、商業、住居、宿泊、文化・交流など多様な都市機能の集積
- ・ 地形的、文化的資源などの地域特性を生かした街並みの形成



オープンスペースの活用



— ポイント —
まちの運営を担う
エリアマネジメント活動
の推進

- ・ 多様な主体の連携によるまちの運営・魅力向上
- ・ 地域が連携したオープンスペースや公共空間の活用によるにぎわい・交流の創出
- ・ 地域の魅力・価値を発信するシティプロモーションの取組の推進
- ・ デジタル技術を活用したまちづくりの推進



にぎわい空間（イベント）



2 目指すべきまちの構造

- 国際ビジネス交流拠点と高質な居住環境を両立した魅力ある複合市街地の形成を図ります。
- 都市開発事業等により整備の進展した主要区画道路（尾根道）および東西の区画道路により「道路ネットワーク」を形成します。
- 各街区をつなぐ「歩行者回遊軸」を設定し、尾根道と連携しながら人々の回遊を活性化するとともに、広場・オープンスペース等をつなぐことで地区のにぎわい・交流を促進します。
- 地区の魅力である地形等が織りなす緑豊かな環境を発展させるため、歩行者回遊軸と連動した「緑の軸」を連携・強化します。

■目指すべきまちの構造

